

安全で
安心できる
くらしの実現

第三十三回 九頭竜川流域委員会の概要について

近畿地方整備局および福井県は、「九頭竜川水系河川整備計画」を策定するに当たり、学識経験者の意見を聴くため平成十四年五月に九頭竜川流域委員会を設置し、これまでに三十二回の委員会を開催してきました。

二月二十六日に開催された第三十三回委員会において、二月十五日に策定・公表された「九頭竜川水系河川整備計画」について、国・県から河川整備計画策定に至った流れ等の報告を行い、その後、出席委員全員から感想等を一言ずついただき、設置以来四年九月月にわたって審議を重ねてきた委員会は終了しました。



第三十三回委員会において、国、県から報告した概要は次のとおりです。

「河川整備計画策定の流れ」

昨年八月十八日の河川整備計画原案公表後、第三十二回流域委員会での意見聴取、流域五市町（福井市・勝山市・池田町・越前市・坂井市）で開催した説明会での意見聴取（ハガキ・手紙・FAX・ホームページ）による意見聴取を八月十八日から二ヶ月にわたりに行い、お寄せ頂いた意見を踏まえて、河川整備計画（案）を作成し十二月十三日に公表しました。十二月十八日には関係市町村の意見を踏まえた福井県知事から意見の聴取を行い、河川整備計画を本年二月十五日に策定・公表しました。

「河川整備計画（原案）に対して 県民から寄せられた意見とその整理」

足羽川ダムに関する主な意見を紹介します。

- ・環境アセスメントの結論を早く出して事業を速やかに進めて欲しい。
- ・水害解消のため早期建設をお願いしたい。
- ・環境アセスに三年かかるということだが、早期事業着手して欲しい。

「意見に対する整理」

工事の早期着手と工期短縮に向けた取り組みを実施する。

- ・福井豪雨被害は、ダムがなかったからと科学的裏づけもなく結論付け、ダム建設へと走っている。工事中の橋脚が川をせき止めたとする見方や川底の手入れと堤防強化で防げたとの見方もある。ダムが最適かも一度慎重に見直して欲しい。

「意見に対する整理」

河川整備計画原案では、経済面や自然環境・社会環境への影響を考慮して、河川改修とダムによる洪水調節の組み合わせが最適としている。これは適切な維持管理や必要な堤防の質的整備を前提としている。なお、工事中の橋脚による水位への影響等については、「足羽川洪水災害調査対策検討会」（福井県）において検証されている。

- ・旧美山町の集落の中には、農業用水や生活用水を部子川の水だけを頼りにしている所もある。水環境に悪影響が出ないように配慮が必要。

「意見に対する整理」

足羽川ダム建設に当たっては、環境影響評価を実施することとしており、必要に応じて適切な対策を実施し、環境保全に努める。

「委員からの感想」

- ・主なものを紹介します。
- ・国と県が共同して事務局を設置し、上流から下流

まで連携した議論ができ、全国の流域委員会のモデルになった。

- ・策定された計画がどう展開したのかダム建設前建設中・建設後に渡って各種のデータを取り、収集・評価し、次世代に残していくことが大切。
- ・治水のための足羽川ダムであり、先進事例を研究し、良いものにして欲しい。

- ・足羽川ダムが「穴あきダム」であることを知らない人が多い。もっと広報する必要がある。

- ・福井豪雨により、豪雨前まで議論してきた戦後最大規模の洪水の考え方が崩れた。今後、我々が考えたシミュレーションがいつ崩れるか分からない中で二十一世紀に禍根を残したくないとの思いで検討してきた。
- ・今後、河川整備が環境に与える影響等について情報をオープンにして環境の変化効果について市民にも情報共有できるような仕組みを作りたい。

「池淵委員長からの言葉」

国、県が共同して設置した流域委員会の中で、各委員の積極的な協力をはじめ、関連な意見・審議により、皆様の合意を得てまとまっていきました。九頭竜川水系河川整備計画が出来上がった。厚くお礼を申し上げます。今後、成果を基に環境アセスメントを含めて事業の内容が鋭意進められることを見守りたい。

「主催者、近畿地方整備局 谷本河川部長からの挨拶」

九頭竜川水系として貫いたバランスの取れた河川整備計画ができたと考えています。地域に愛されるすばらしい川を作ることが目的であり、我々としても精一杯努力していきたい。

- ・委員の皆様には、ご熱心な審議と貴重なご意見を賜った。故酒井委員と故三谷委員には、冥福をお祈りすることにもお二人のご遺志に添うように県とも力を合わせて努力していきたい。

平成十九年二月十五日に九頭竜川水系河川整備計画が策定・公表されました

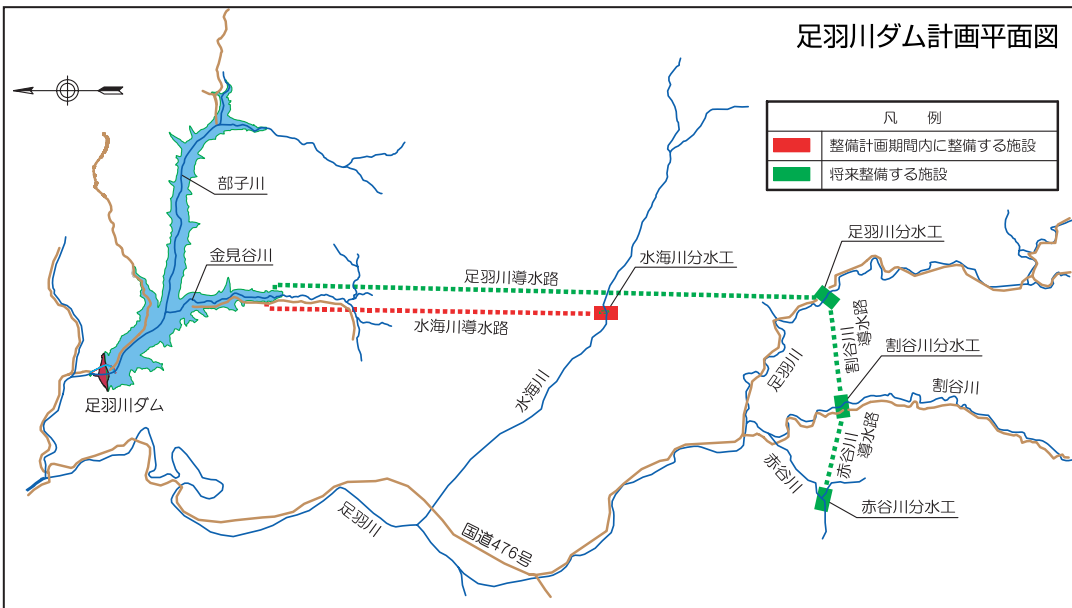
― 足羽川ダム建設事業計画の概要について ―

足羽川ダムは、九頭竜川水系河川整備基本方針（平成十八年二月十四日策定）に定められた足羽川の天神橋地点における基本高水のピーク流量 $2,600\text{ m}^3/\text{S}$ に対し、指定区間（県管理区間）において河道掘削や流下障害となっている橋梁の架替等を実施することにより $1,800\text{ m}^3/\text{S}$ の流下能力を確保するとともに、残り $800\text{ m}^3/\text{S}$ の洪水調節を行う施設として、部子川（池田町小畑地先）におけるダムと水海川・足羽川 割谷川・赤谷川流域の4河川の洪水を導水する分水工及び導水路からなる流域内の洪水調節施設として位置付けられています。

河川整備計画期間内においては、目標である戦後最大規模の洪水（天神橋地点の流量 $2,400\text{ m}^3/\text{S}$ ）に対して、上記指定区間の河道整備により $1,800\text{ m}^3/\text{S}$ の流下能力を確保し、残りの $600\text{ m}^3/\text{S}$ を足羽川ダムにより洪水調節を行います。今回策定した河川整備計画の期間中に建設する施設規模は、河川整備基本方針を踏まえて段階整備を基本としますが、ダム本体は段階整備に適さない構造物であることから、施設規模は河川整備基本方針対応で整備します。

また、導水路は水海川からの導水路と足羽川、割

谷川・赤谷川からの導水路の二条で建設し、リスクの分散等を考慮した段階整備とします。今回の河川整備計画期間内に足羽川ダムは、ダム本体と水海川の洪水を導水する分水工及び導水路を整備します。

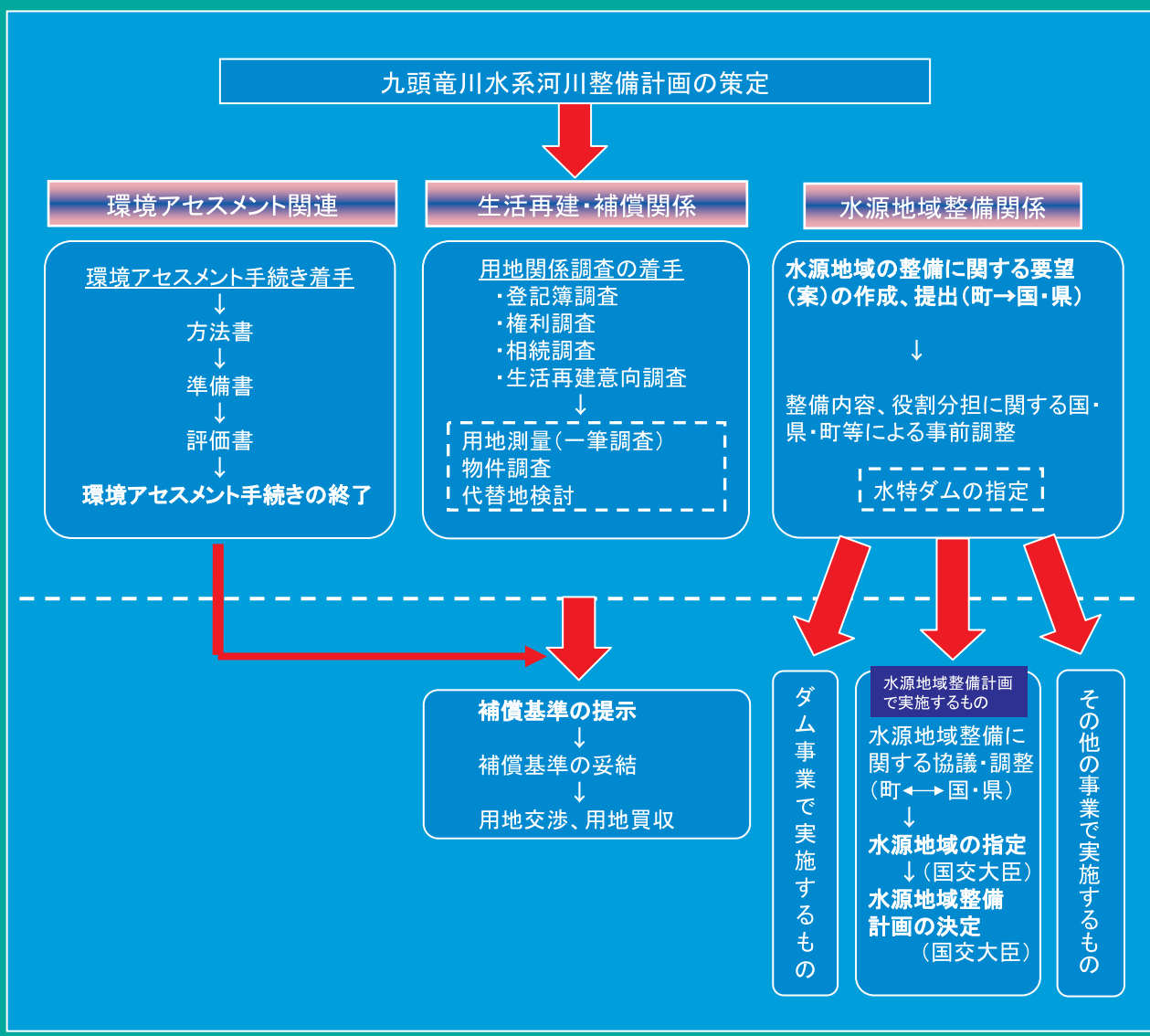


今後の足羽川ダム 建設事業の動き

足羽川ダムの建設にあたっては、事前に環境影響評価法に基づく環境影響評価を実施することを予定しており、ダム建設中及び完成後の大気・水環境や動植物・景観等の自然環境への影響などを評価し、必要に応じて適切な対策を実施し、環境の保全に努めていきます。また、ダム完成後も自然環境への影響をモニタリングしていきます。

あわせて、水源地域の方々、下流域の方々の期待・不安にしっかりと応えるよう、また一日も早く事業効果を発揮できるようダム事業、水源地域対策を国土交通省・福井県・流域の関係市町が一層連携し進めていきたいと考えています。当面の目標として平成二十年度の用地補償基準の提示・妥結に向け環境影響評価の手續きと共に事業地域にお住まいの方々のご理解を得たうえで補償の調査を進めていきます。実施にあたっては、昨年十月に国・福井県・池田町とで互いの信頼と協力のもとに円滑に事業を進めることを目的として締結した基本協定のもとに作業を進めているところであり、流域内の相互理解を深め、ごなたからもあつて良かったと言われるようなダムを目指してまいります。

河川整備計画策定後のダム事業



治水専用ダム

(いわゆる穴あきダム)とは

足羽川ダムは治水専用のダムで、平常時は川の水をそのまま流し、洪水時には一時的に水を貯めるダムです。

治水専用ダム(いわゆる穴あきダム)は次のような特徴が挙げられます。

〈治水〉

・洪水時には一時的に洪水を貯留し、下流沿川の洪水被害を軽減します。

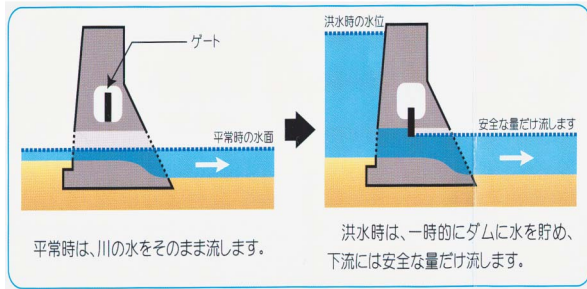
〈利水〉

・利水機能を持たず、通常時ダムに水を貯めません。

〈環境〉

・通常時はダムに水をためないため、流入水とほぼ同じ水質が維持されます。

・上流から流れてきた土砂を全て補足するのではなく、流水と同時に土砂が流れます。



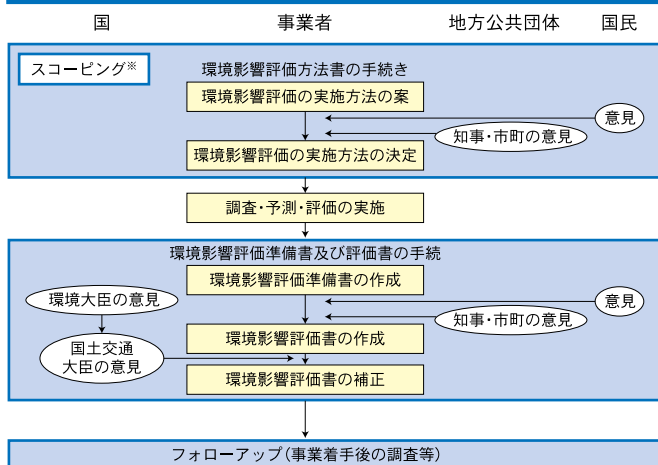
治水専用ダムのイメージ

環境アセスメントとは

足羽川ダム建設にあたっては、環境影響評価法に基づき環境にどのような影響を及ぼすかについて、あらかじめ調査・予測および評価を行うとともに、その結果を公表して県民、知事などから環境保全の見地から意見を聞き、それらを踏まえて環境保全について適正な配慮がされるよう努めていきます。

足羽川ダムでは、通常3〜5年程度の期間で行われている手続きを、既存の調査結果を最大限有効活用し、2年程度で手続きを終えらるよう努力していきます。

環境影響評価法に基づく環境アセスメントの流れ



※アセスメントの方法を決めるにあたって住民、地方公共団体などの意見を聞く手続き。

福井市洪水ハザードマップの配布について

(美山地区、清水地区、越前地区)

平成十八年三月に福井県は、水防法改正に伴う足羽川上流部(天神橋上流)の浸水想定区域図を作成しました。これを受け福井市は洪水ハザードマップ・土砂災害マップ(福井市洪水避難地図)を新たに作成し、美山地区、清水地区、越前地区の全戸(約5,200世帯)に配布します。(旧福井市では平成十七年十月に全戸配布済みです。)

1 洪水ハザードマップ・土砂災害マップとは

ハザードマップとは市民の皆様の水害時等における迅速かつ円滑な避難行動や防災意識の高揚に役立てていただくもので、概ね百五十年に一回程度の大雨において九頭竜川、日野川、足羽川の堤防が決壊した場合を想定して、浸水の範囲と深さならびに公共の避難場所等を示した地図です。併せて、がけ崩れや土石流など土砂災害が発生する恐れのある区域や被害の生じる恐れのある区域も示しています。

2 洪水ハザードマップの活用方法

ハザードマップを見ると、自分の住んでいる場所がどのくらい浸水する可能性があるかを知ることができます。ハザードマップを見やすい場所に貼り、平素から家族の集会所、避難場所、非常持出品の置き場所等を確認し、各家庭で災害時の行動を話し合い、災害時は早めの避難を心掛けましょう。

【共同発行人】 ◎ご意見、ご感想等、みなさんの声をお寄せ下さい。

なお、足羽川ダム計画(案)は、次の国と県のホームページでもご紹介しています。

国土交通省近畿地方整備局足羽川ダム工事事務所
〒918-8239
福井市成和1-2111 ポラリスビル
TEL(0776)27-0642代 FAX(0776)27-0643
http://www.kkr.nlit.go.jp/asuwa/index.html

福井県土木部河川課ダム建設・足羽川ダム対策室
〒910-8580
福井市大手3-17-1
TEL(0776)20-0486 FAX(0776)20-0696
http://info.pref.fukui.jp/kasen/index.html

福井市建設部河川課
〒910-8511
福井市大手3-10-1
TEL(0776)20-5492 FAX(0776)20-5745
http://www.city.fukui.lg.jp/d380/kasen/index.html